

1. 医療相談室の体制

2011年度も室長（兼事務長）、医療ソーシャルワーカー2名で業務にあたった。一般病棟は内田、前田で担当し、亜急性期病床は前田、回復期リハビリテーション病棟を内田が主に担当した。

2. 地域連携

①前方連携（紹介受け入れ）

全体の紹介件数は2,303件で、近隣（三角町、大矢野町、松島町）の医療機関からの紹介は1,364件と両方とも微増であった。

紹介元の状況をみると、2011年度も全体の約6割が近隣の医療機関からの紹介であり、特に3医療機関からの合計が近隣全体の約6割を占めており、紹介元の偏在が続いている状況である。診療科別でみると外科、呼吸器科医師の増員により、それらの科の紹介が増加し、逆に脳神経外科、循環器科の紹介が減少した。また、前年と同じくCKD連携パスの導入によって泌尿器科の紹介件数が増加している。その他の診療科についてはほぼ前年度と同じ件数で推移している。

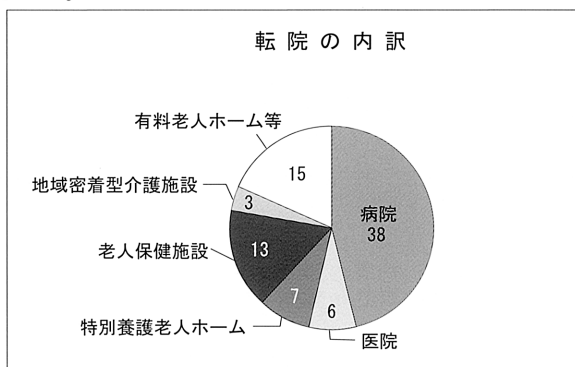
紹介件数の推移

	2011	2010
近隣(再掲)	1,364	1,345
全 体	2,303	2,257

②後方連携（転院・入所調整）

MSWが介入し転院・入所調整を行った件数は82件（2010年度77件）と5件増であった。内訳では約5割が療養を目的とした医療機関への転院で、約3割が介護施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、地域密着型介護施設）への入所となった。最近、当院周辺にも有料老人ホームが多く設立され、約2割がそちらへの退院となっている。

2011年度は主疾患と併せて、医療依存度（経管栄養、吸引）や精神科疾患（認知症等）を抱えた患者さんの転院相談が多く、転院調整に難航したケースも数例あった為、療養型病院は元より精神科病院との連携を積極的に行っていきたい。



③連携先訪問

2011年度は24カ所の連携先を訪問した。訪問目的としては、患者支援を目的とした同行訪問や無料低額診療事業、生活困窮者支援事業への協力依頼、出前健康講座の広報な

どであった。ケアマネジャーの会合などに出席し、専門職向けの出前講座や、無料低額診療事業のPRを実施した。2012年度からは、三角地区の民生委員児童委員協議会の定例会に参加させて頂くことになっている。今後、独居高齢者等の単身世帯の増加により、介護施設や在宅サービス事業所の他に、民生委員など、地域に密着した取り組みを行っている方々との連携が重要性を増すと思われる。よって、2012年度からさらに病院から地域に出向く活動を積極的に行っていきたい。

3. 相談活動

相談延べ件数は2,817件（前年比11.1%増）であった。療養型医療機関や福祉施設への転院調整と在宅復帰に向けた援助活動はほぼ横ばいであったが、経済的な内容に関する相談件数は前年度に比べ減少した。ホームレス状態で入院する患者さんや、家族の介護力の低下、キーパーソン不在など多問題を抱えるケースが増える傾向にあり、生活環境上の援助が半数近くを占めた。

無料低額診療事業については69件の相談があり、そのうち64件（前年比77.7%増）が申請に至った。2011年度はケアマネジャーの研修会でPR活動を行ったり、警察へ協力を依頼するなどの取り組みを行った。当事業は済生会の根幹を成すものなので、今後も積極的な事業の展開を行っていきたい。

また、社会福祉推進事業（済生会生活困窮者支援事業）も前年度と同じく実施している。具体的には、福祉サービス利用者に対するインフルエンザ予防接種の一部負担金減額事業、低所得かつ要介護状態で家族の支援が困難な方への受診送迎事業、健康相談事業（出前健康講座にて）、生活支援連携協議会の開催などである。宇城市、上天草市の関係機関に参加して頂き、生活困窮者支援を検討する生活支援連携協議会も定期的に開催しており、顔の見える連携が少しずつではあるができていないのではないかと感じている。

4. 出前健康講座

出前健康講座は前年度と同じく44回実施し、講演回数は200回を超えた。これまでと同じく三角町、大矢野町、松島町を中心に依頼があったが、宇土市からの依頼も増加傾向にある。ある依頼者からは、中高年の方々の健康への関心が非常に高く、こういった活動をして頂くことは大変助かるし、参加される方も多いとのことをお話を頂くこともあった。特に脳卒中や生活習慣病、糖尿病の合併症など、知識がある方とない方ではその後の人生を大きく左右するような内容もある為、できるだけ多くの方々に参加して頂くよう、これからは積極的に取り組んでいきたい。

5. 2012年度の計画

2012年度はMSWが1名増員予定であるが、済生会の根幹を成す無料低額診療事業がまだ目標に達していない為、スローガンを「無料低額診療事業の推進」とした。当院周辺地域は4人に1人が低所得者（非課税世帯）である為、経済的な理由で医療にアクセスできない患者さんを掘り起こし、地域住民が安心して生活できる環境作りを行っていきたい。